

高齢者福祉施設等における 救急ガイドブック



東部消防組合消防本部

警防課

平成 30 年 3 月

はじめに

近年の全国的な救急需要の増加や高齢化を背景に、東部消防管轄内でも65歳以上の高齢者の方々の救急搬送が増えています。このような現状を踏まえ、東部消防組合救急業務実施規程に基づき、高齢者福祉施設等における救急ガイドブックを作成いたしました。

高齢化社会が進むなか、高齢者向け施設からの救急要請件数も増加傾向にあり、ご利用者の発病のほか、転倒、異物誤飲など不慮の事故に起因した救急要請も見受けられます。

高齢者の方は、少しの病気やケガ等でも重症化する場合があります。施設内での不慮の事故による救急搬送事例の中には、少しの工夫で防げるものがあります。

そこで、「**予防救急**」として、救急車が必要になるような病気や怪我等を少しの注意や心がけで、防ぐためのポイントをご紹介しますとともに、皆さまと救急隊が理解を深め、もしものときの救急対応を円滑に行えるように、この「救急ガイドブック」を作成しました。

また、普段から健康相談のできる「かかりつけ医」を持つことや、何かのときに相談・受診していただける「協力病院」を持つことなど、もしもの時に対応できる体制作りも必要です。

いざというときの対応を確認し、施設の皆さまと救急隊が理解を深め、より円滑な救急対応が行えるように・・・このガイドブックを、ご活用いただければと思います。

「**予防救急**」とは・・・

これまでの救急出動事例を踏まえ、「もう少し注意していれば・・・」、「事前に対策しておけば・・・」と思われた事故や怪我、病気をほんの少しの注意や呼びかけで未然に防ぐ取り組みのことをいいます。

救急の現状と概要

東部消防管轄内の救急の概要と、施設からの救急要請の概要について、ご紹介します。

東部消防組合の救急件数の過去年分をグラフに表すと以下の通りとなり、年々増加傾向であります。

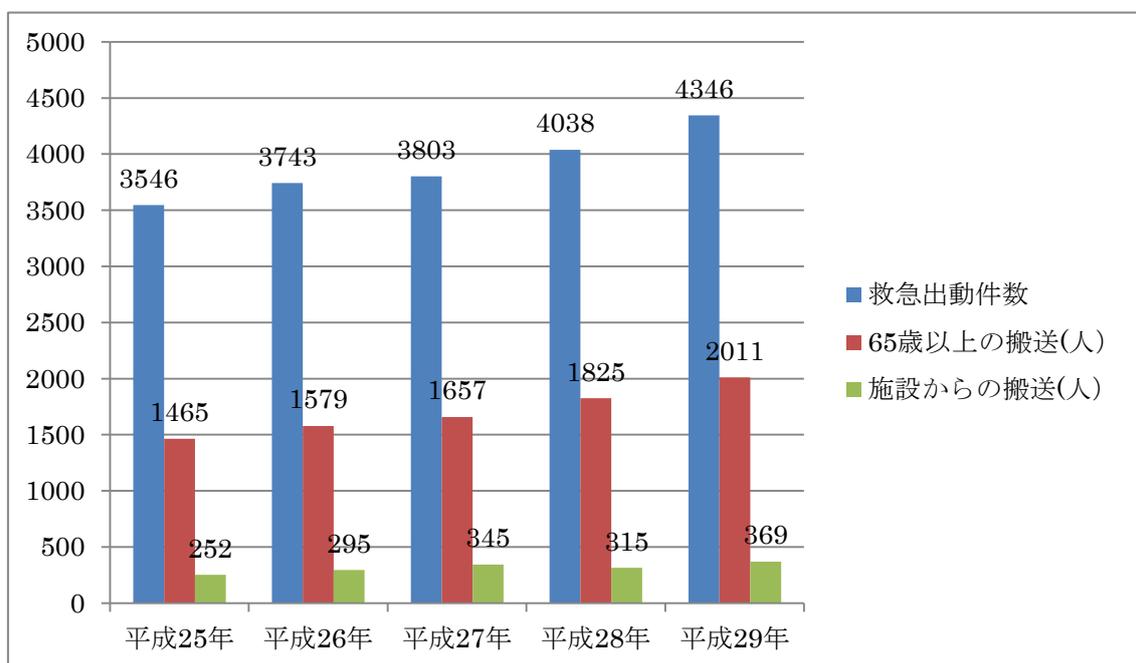


図 1

平成 29 年中の救急出場件数は 4,346 件で、65 歳以上の搬送人員は 2011 人です。このうち、約 18%にあたる 369 人（65 歳以上）が施設からの救急要請で搬送されています。【図 1 参照】

また、救急事故の分類としては、交通事故、労働災害、加害、自損行為、急病、一般負傷などがありますが、平成 29 年の施設における救急要請の理由は急病と一般負傷であり、中でも急病が 9 割を占めています。

「一般負傷」とは・・・歩行中の転倒やベッドからの転落などの不慮の事故、食べ物などの窒息事故などのことをいいます。

「施設」とは・・・有料老人ホーム、介護保険施設、高齢者向け住宅、グループホーム、軽費老人ホーム、など。

急病の詳細を見てみると、肺炎、呼吸不全、脳梗塞、脳出血、心不全など緊急度も重症度も高い疾患などが目立ちました。

一般負傷については、高齢者に特有な大腿骨頸部骨折など入院を要するものや、誤嚥や窒息など緊急性の高い事故も含まれています。

平成 29 年中の東部消防組合での救急事案全体のうち、65 歳以上の搬送者数は 2,011 人となっており、全体の 48.9%を占めており、この傾向は年々増加の傾向にあります。

65 歳以上の搬送者傷病程度別では、軽症が 790 人、中等症が 764 人、重症が 384 人、死亡が 70 人となっています。【図2 参照】

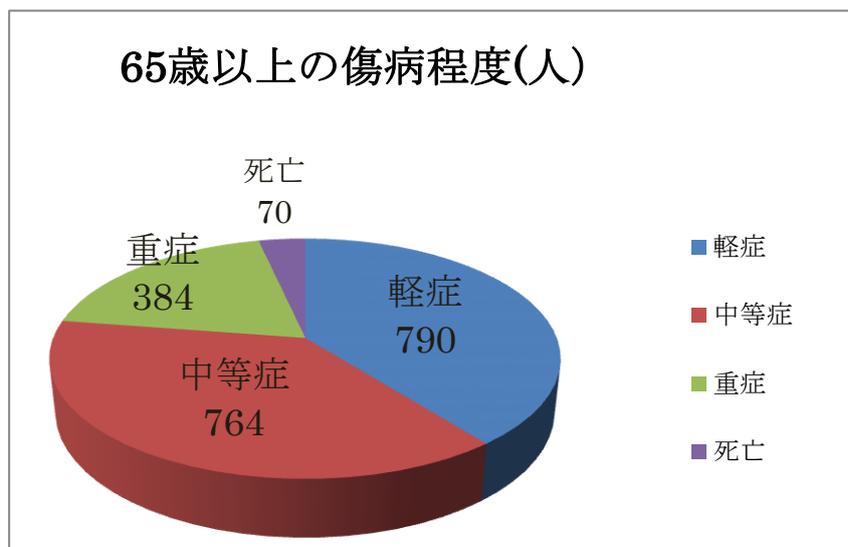


図2

施設から救急要請があった場合、他の救急事案と比較すると中等症以上の占める割合が高いこともあり、施設での救急事案は他と比べて重症度が高いため、早急な病院搬送が必要になります。

傷病者の情報をより早く、確実に把握するため、施設側と救急隊がスムーズな連携を実施することが大切です。

また、重症度の高い救急事案が多いため、質の高い応急手当を身につけておく必要があります。救急隊が到着するまでの応急処置も重要になってきます。

施設内での【予防救急】

救急搬送事例からみえてきた、施設内でできる「**予防救急**」のポイントをご紹介します。



1 手洗い・うがいの励行

インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が発生、拡大しないように、職員の皆さまだけでなく、入所者全員の 手洗い・うがいを徹底してください。また、感染の経路（接触・飛沫・空気など）や、嘔吐物などの正しい処理の方法 など、感染予防対策を知ることで、施設内での二次感染を防ぐことができます。

2 転倒・転落防止

高齢者の方は、普段生活していて慣れている場所でも、小さな段差でつまずいてしまい、骨折を伴う重症となってしまうことがあります。

施設内での段差や滑りやすい場所などの危険個所に注意するとともに、整理・整頓を心掛け、廊下や部屋の明るさにも注意してください。



3 処方薬の副作用を確認



処方薬によっては、副作用で思った以上にふらついてしまい、ベッドから起き上がる時など、転倒・転落してしまうことがあります。

処方薬の副作用を確認し、特に処方薬が変わった時や、処方薬の量が増えた時などは、服用後の容態変化に注意してください。

4 誤嚥・窒息の予防



特に脳梗塞や神経疾患の既往のある高齢者の方は、嚥下運動が障害され、飲み込みにくくなっていることや、咳をしづらくなっていることもあり、誤嚥や窒息を生じやすくなっています。

ゼリーや大きな肉はもちろん、飲み込みにくいパンなどでも、窒息事故が起きています。小さく切って食べやすい大きさにしたり、ゆっくりと食事に集中できるような環境をつくり、適宜、施設職員の方が食事の様子を見守るなど、注意がけをお願いします。

もしも、食事中にむせるなどの症状があった場合は、食事後の容態変化に注意しましょう。

5 温度変化に注意

高齢者の方は、温度調節機能が低下し、のどの渇きも感じにくくなっています。夏季は「熱中症」、冬季は「ヒートショック」などによる救急事故が増える時期となります。

居室やリビングだけでなく、施設内のお風呂場やトイレ、廊下などの温度変化にも注意し、急激な温度変化を作らない環境づくりを心掛けましょう。



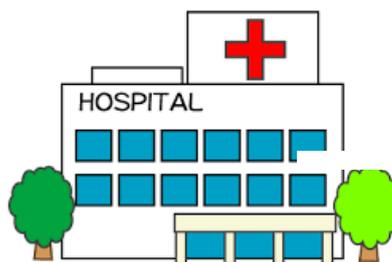
6 生活状況の記録



施設職員の皆さまは、入所者の方の普段の生活状況についてよく知っています。毎日の状況や様子を記録し、いざという時のために、職員の皆さまが入所者の方の状況を把握できるような記録を作成してください。

また、救急要請に必要な情報『**救急連絡シート (P13)**』の作成にご協力をお願いします。

7 病院との連絡体制の構築



入所者ごとに、かかりつけ医師や協力病院との連絡を密にし、健康管理だけでなく、容態変化したときに相談・受診できる体制を作りましょう。

症状が発症した場合には、早めに医療機関を受診する体制を構築してください。また、症状が悪化する前に受診することや、夜間・休日で職員が少なくなる前の、早めの対応をお願いいたします。



8 事故発生時の対応

事故防止に努めていても、緊急事態が起こらないとは限りません。いざというときに慌てないために、施設内で、各職員がどのように行動したらよいか、話し合ってください。

特に休日・夜間など、少ない人数で対応しなければいけない時に、どのように行動したらよいか検討しておいてください。

緊急時に使用する資器材（AED、救急バック等）の設置状況についても、事前に確認しておいてください。



9 応急手当の習得と実施

入所者の方が生命の危険にさらされたとき、最初に気付くのは施設職員の皆さまです。消防署では、いざというときのための応急手当を学ぶ「救命講習会」を開催しています。ぜひ、いざというときのために、応急手当を身につけましょう。

※救命講習会の申し込みについては[東部消防組合消防本部](#)のホームページ「講習会・試験案内」をご確認ください。



救急要請時対応ガイド

緊急事態発生！！

- 施設内に知らせ、職員を集めましょう。
- 集まった職員に指示してください。
- 傷病者に応急手当を実施してください。



119 番通報

- 住所・施設名・電話番号
- いつ？ 誰が？ どこで？ どうした？
- 傷病者の今の状況（意識が無い、呼吸がない 等）
- 今、実施している応急手当（酸素投与、止血、胸骨圧迫など）



救急隊到着・・・救急隊の誘導をお願いします

- 玄関等のカギを開けてください。
- 傷病者の今の状況を伝えてください。
(救急連絡シートを渡してください)



傷病者の付添いをお願いします

- 病院への申し送りが必要です。
(普段の様子、経緯など詳しく聞かれます)
- 傷病者の状況がわかる方が救急車に同乗してください。
- カルテ等の申し送りに必要な物を持参してください。



救急要請時のポイント

1 施設内での対応

- (1) 緊急事態が発生したことを、施設内職員へ知らせてください。
- (2) 緊急事態が起こった場所に、職員を集めてください。
- (3) 集まった職員の役割を分担してください。

ア 119番通報

イ 傷病者への応急手当

ウ 関係者への連絡（家族・施設関係者など）

エ 救急車の誘導と、救急隊を傷病者のところへ案内してください。

オ 何が起こったのか、どんな応急処置をしたのか説明してください。

カ 『救急連絡シート(P13)』などの傷病者の必要な情報を渡して下さい。

2 協力病院への連絡と搬送病院の確保

- (1) 状況に応じて、協力病院やかかりつけ医師に連絡してください
- (2) あらかじめ搬送先医療機関を交渉・確保されている場合は、当該医療機関へ搬送します。

※ 緊急度・重症度により、搬送医療機関を変更する場合があります。

3 施設職員の同乗

- (1) 医療機関への申し送りが必要です。
- (2) 看護記録・介護記録・カルテ等を持参してください。

4 D N A R（蘇生処置拒否）の意思表示

- (1) 傷病者や家族からD N A R（蘇生処置拒否）の意思表示（書面等）がある場合は、あらかじめ協力病院やかかりつけ医師に相談してください。
- (2) D N A R の意思表示があった場合でも、救急隊はかかりつけ医師からの指示を得るまでは、応急処置をせずに医療機関へ搬送することはできません。

～ 救急隊の活動にご理解とご協力をお願いします ～

おもて

救急連絡シート			施設名
			住所
			TEL
作成日	年 月 日	作成者	本人・家族・施設職員（氏名）

住所			
ふりがな 氏名			性別 男 ・ 女
生年月日	M・T・S・H 年 月 日	年 齢 歳 (H 年 月 日現在)	
連絡先 電話番号			

◆医療情報

現在治療中の 病 気			
過去に医師から 言われた病気			
服用している薬			
かかりつけ 又は 協力医療機関等	医療機関名	主治医氏名（診療科 目）	緊急時連絡先

◆普段の生活

介護区分		歩 行	寝たきり ・ 車椅子 ・ 補助歩行 ・ 自力歩行
会 話	可・不可	食 事	経 口 ・ 介助経口 ・ その他（ ）

◆緊急時連絡先

氏 名	続 柄	住 所	電話番号

※この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。

※救急搬送終了後に、同乗の施設職員に返却、又は家族、搬送先医療機関へお渡しします。

時間がある場合は、裏面に救急要請の状況や現在行った処置などを記録してください。

うら

救急要請の状況

※救急要請時に、時間がある場合は記載してください。

状態が悪く処置を行わなければならない場合は、処置を優先してください。

いつ・・・

どこで・・・

何をしているとき・・・

どうなった・・・

直近のバイタルサイン

測定時間

意識	<input type="checkbox"/> 清明 声掛けに反応	: <input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	JCS ()
呼吸数	回/分	脈拍数	回/分
血圧	mmHg	体温	
SpO ₂		瞳孔	

現在、実施した処置・薬剤など

その他、救急隊に伝えたいこと。

◆DNAR（心肺蘇生を行わないこと）について本人及び家族の意思確認

DNAR に同意あり

DNAR に同意なし

緊急時に慌てることのないように記入できるところは事前に記入しておきましょう。

【記入例】

救急連絡シート		施設名	〇〇施設
		住所	〇〇町〇〇番地
		TEL	098-〇〇〇-〇〇〇〇
作成日	H30年 〇月 〇日	作成者	本人・家族・施設職員(氏名 ^〇)

家族や施設職員が作成した場合は氏名をご記入ください。

住所	〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号 ●●アパート □□号室		
ふりがな 氏名	とうぶ たろう 東部 太郎	性別	<input checked="" type="radio"/> 男 ・ 女
生年月日	M・T・ <input checked="" type="radio"/> S・H 〇〇年 〇月 〇〇日	年齢	歳 (H 年 月 日現在)
連絡先 電話番号	098-〇〇〇-〇〇〇〇 090-〇〇〇〇-●●●● (携帯電話)		

◆医療情報

現在治療中の 病 気	糖尿病 高血圧		
過去に医師から 言われた病気	脳梗塞 心筋梗塞		
服用している薬	降圧剤、ワーファリン ※お薬手帳の情報がある場合はご持参ください。		
かかりつけ 又は 協力医療機関等	医療機関名	主治医氏名(診療科 目)	緊急時連絡先
	〇〇クリニック	〇〇先生(訪問診療)	098-〇〇〇-●●●●
	〇〇病院	〇〇先生(循環器内科)	098-〇〇〇-●●●●

◆普段の生活

介護区分	<input checked="" type="radio"/> 要介護〇	歩 行	<input checked="" type="radio"/> 寝たきり	・ 車椅子	・ 補助歩行	・ 自力歩行
会 話	<input checked="" type="radio"/> 可	・ <input type="radio"/> 不可	食 事	経 口	・ <input checked="" type="radio"/> 介助経口	・ その他 ()

◆緊急時連絡先

氏 名	続 柄	住 所	電話番号
東部 次郎	長男	〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号 ●●アパート □□号室	090-〇〇〇〇-●●●●
西原 花子	長女	〇〇市〇〇番地	090-〇〇〇〇-●●●●

※この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。

※救急搬送終了後に、同乗の施設職員に返却、又は家族、搬送先医療機関へお渡しします。

時間がある場合は、裏面に救急要請の状況や現在行った処置などを記録してください。

救急要請の状況

※救急要請時に、時間がある場合は記載してください。

状態が悪く処置を行わなければならない場合は、処置を優先してください。

いつ・・・

○月○日 ○時○○分頃

どこで・・・

施設の食堂で

何をしているとき・・・

夕食を食べている最中に

どうなった・・・

突然、意識を失った

直近のバイタルサイン

測定時間 ○ 時 ○○分

意識	<input type="checkbox"/> 清明 声掛けに反応	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	JCS (III-200)
呼吸数	20 回/分	脈拍数	50 回/分
血圧	100 / 60 mmHg	体温	37.2℃
SpO2	93%	瞳孔	左右 3mm +

現在、実施した処置・薬剤など

酸素投与 2 リットル開始、SP02=93%を維持

その他、救急隊に伝えたいこと。

・ 右耳が聞こえにくいので、左側からゆっくり話かけてください。

◆DNAR（心肺蘇生を行わないこと）について本人及び家族の意思確認

DNAR に同意あり

DNAR に同意なし

本人及び家族の意思確認を得ている場合はご記入ください。

おわりに



これから高齢化率が増加していくことは目に見えて明らかです。また65歳以上の高齢者の救急搬送件数も年々増加し、今後も右肩上がりに増加していくことは確実と言われております。

東部消防組合では、増加する救急要請に適切・的確に対応するために病気やケガ等を未然に予防するための取り組み『**予防救急**』を推進していきます。

ほんの少しの注意や心がけで、防ぐことのできる救急事故があります。高齢者の方は少しの病気やケガ等で中等症以上（入院）となることが多く、重症化してしまうことがあります。

是非、施設の皆さまにおきましても『**予防救急**』に取り組んでいただき、高齢者の方がいつまでも元気で、安全・安心して暮らしていただけるように、ご協力をお願いいたします。

また、いざという時の対応を、施設の皆さままで確認していただき、施設の皆さまと救急隊がより円滑な連携が行えるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。





火事・救急は119番

◆住所

◆施設名

◆電話番号

(消防から折り返し電話をかける場合があります)

119 要請時に伝えて欲しいこと

救急の時

- 年齢
- 性別
- 症状
- 意識
- 呼吸の有無 など

火事の時

- 出火場所(建物の階数)
- 逃げ遅れの有無 (避難状況)
- 燃えている状況
- 初期消火の状況など

緊急時、慌てずに 119 番通報できるよう、ご活用ください。

東部消防組合消防本部

お問い合わせ窓口

東部消防組合消防本部 警防課 救急救助係

TEL: 098-946-9999

FAX: 098-889-7601